

## 平成29年度事業計画

地域資源を活用した関連産業の発展に資するため、「マッチング」、「商品開発」、「販売促進」、「広報・PR」に引き続き取り組むとともに、「テーマ設定」をした地域資源について、それらの調査・活用から商品開発、販売・PRに至るまでの面的な支援策を検討し、事業化を図って行きます。

### 【マッチングの主な取組み】

- ① 松江ならではの食材・食文化をお土産品や飲食メニュー開発につなげ、観光産業との連携で消費拡大を図ります。
- ② 「食と観光」・「地域資源と観光」をテーマに、まつえの産地体感ツアーを開催し、生産者や商工業者の現場の様子や声を消費者に直接伝え、実体験を提供することで、地場産品、地域産業への認知と理解を広げます。
- ③ 売れる商品作りや商品改良、地域資源の活用や地域課題解決をテーマとした研修会等を開催することなどによりスキルアップの機会を設けるとともに、異業種交流会を開催し異業種マッチングの機会を創出します。
- ④ 商品開発や企業見学を通じて、高校、大学等の教育機関と市内事業者をマッチングする機会を創出します。

### 【商品開発の主な取組み】

- ① 引き続き新商品開発助成を行います。
- ② 活用が期待できる地域資源の情報や一次加工品などの原材料を事業者へ提供するとともに、技術・設備を備えた事業者との仲介を図るなど、試作の提案やコーディネートを行います。
- ③ 大学等研究機関等の協力を得ながら食材の栄養成分や機能性を分析し、健康等を意識する消費者を惹きつける商品開発に繋げるため、それらの調査・研究への支援を行います。

### 【販売促進の主な取組み】

- ① 引き続き見本市等出展助成を行います。
- ② 販売事業者や生産者が主体的に自らの商品、食材をPRし販売する手段と場を提供します。
- ③ 県内外のイベントへ直営店を出店し消費者及びバイヤー等の反応を得る機会を設けます。
- ④ 地元食材のさらなる活用と消費拡大を図るため、学校給食への活用を提案します。

- ⑤ のぼりやチラシなどの販促グッズを作成することにより地元食材や開発商品の販売促進を図ります。
- ⑥ 首都圏での松江ゆかりの店や人のつながりによる販売促進を行います。
- ⑦ 金融機関等が地元で開催するマッチング商談会への協力により、地域内での取引の拡大を図ります。

### 【広報・PRの主な取組み】

- ① 報道機関と連携して、事業や商品の情報をタイムリーに発信します。
- ② ホームページやフェイスブックページでの情報発信を行います。

### 【テーマ設定をした地域資源活用に関する取組み】

- ① 平成30年に『松平不昧公200年祭』が開催されることから、「茶」・「茶の湯文化」をテーマとして取り上げ、松江のお茶によるおもてなし、お茶に関する新商品・新サービスの開発、地産地消推進など、「茶」・「茶の湯文化」を活用した松江の地域イメージ向上につながる取組み開始します。
- ② 市内各地域に伝わる「食材・食文化」を取り上げ、それらの掘り起こしや食文化の継承、観光資源や地域振興への活用の取組みを行います。

事業の詳細は以下のとおりです。

## 1. 主催事業

### (1) 試食会・交流会・研修会等開催

#### ① まつえの産地体感ツアー（第10弾）

【実施時期】 平成29年5月13日（土）

【内 容】 ・島根町いわがき養殖場、美保関町美保関の水産加工品等見学

※第11弾についても、地場産業・地場産品を取り上げたコースを設定し実施予定

#### ② 事業者研修会・交流会

【実施時期】 平成29年9月頃

【内 容】 ・生産資源情報や企業のもつ技術・設備等の紹介、活用方法などを中心とした研修会。事業者発表ほか。異業種マッチングの場を提供。

### ③ 商品改良セミナー（仮称）

【実施時期】 （未定）

【内 容】 ・これまで実施してきた「デザインセミナー」に替わるものとして、小売店バイヤーまたは専門のアドバイザーを招聘し、消費者目線からの商品づくりのポイント等について講演・研修会を行う。

## （2）直営店出店

### ① 尾道みなと祭

【日 時】 平成29年4月22日（土）

【会 場】 尾道市役所前特設会場

【内 容】 広島県尾道市で開催される「尾道みなと祭」において、「宍道湖しじみ」のPR販売を実施。

### ② まつえ農林水産祭

【日 時】 平成29年10月29日（日）

【会 場】 松江市総合運動公園

【内 容】 松江市が主催する農林水産物販売イベントに出店し、農水商工連携開発商品のPR販売を行う。

### ③ 島根ふるさとフェア2018（広島）

【日 時】 平成30年1月20日（土）～21日（日）

【会 場】 広島市

【内 容】 島根県広島事務所等が開催する島根県観光物産の販売PRイベント。農水商工連携開発商品のPR販売を行う。

## 2. 商品開発・販売促進支援

### （1）助成金交付

【まつえ農水商工連携事業助成金交付要綱に基づく助成】

#### ●新商品、新サービス開発費助成

開発のための原材料費、パッケージデザイン料等の助成

●開発した商品等の販路拡大のための見本市等出展費助成

会場使用料、小間料、装飾経費、輸送料、販売人件費等の助成

●産学連携における調査・研究、新商品開発費助成（新規）

調査・研究費、開発のための原材料費、パッケージデザイン料等の助成

**（２）開発支援**

- ・地域資源の情報や原材料を事業者へ提供し、相談、仲介、試作等のコーディネートを行って新商品開発を支援する。
- ・地元食材を学校給食や地元飲食店へ提案し、メニュー化を促進させる。
- ・大学等の研究機関や高等学校等（松江農林高校、松江商業高校、島根県立東部高等技術校など）の教育機関、生産者、商工業者の連携による「生産～商品企画～製造・開発～販売」の取り組みを支援する。

**（３）販売促進支援**

- ・パネルやのぼり等の販促グッズを活用し開発商品や地元食材の販売流通促進支援を行う。
- ・各種商談会の出展支援を行う。
- ・ＪＲ松江駅前の「こだわり市場」のリニューアルに合わせ、開発商品や地元産品の販売コーナーを設置していただき、ＰＲ販売を実施する。
- ・例年、東京で開催される「松江特産品フェア」へ参加し、開発商品の ＰＲ 販売や飲食店等への地元食材の提供、メニュー化支援等を行う。
- ・開発商品や地域資源を活用した製品のネット販売、ギフト商品化など、販売促進につながる手法の検討を行う。

**３．広報・PR**

**（１）インターネットを活用した情報発信**

- ・新開発商品情報及び各種イベント開催情報等、協議会の活動状況をホームページ及びフェイスブック等のSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を活用しタイムリーな情報提供を行う。

## (2) 支援制度等のパンフレット作成

- ・地域資源を活用した新商品の開発や販売促進等に関する各種支援制度（国・県・市）および協議会の支援体制などをまとめたパンフレットを作成し、支援体制の周知を図る。

## 4. 調査研究事業

### (1) 産学共同研究事業

- ・松江の地域資源の新たな活用方法や新商品等の開発に向けての調査・研究について、地元大学等と共同で行う。

## 5. テーマ設定をした地域資源活用

### (1) 「お茶」の地域経済循環構造分析事業

- ・多くの茶葉が県外から流入していると言われていた「お茶」に着目し、「お茶」の生産・販売から地域内での所得の発生や流出入の構造を分析することによって、「お茶」に関する地域経済の状況を把握し、それに基づいた「お茶」の地産地消推進施策の検討や、地元産（松江産・県内産）の「お茶」の将来的なブランド化等に向けての検討を行う。

#### 【事業内容】

- ①「お茶」に係る地域経済循環構造の分析（生産者・茶商・消費者等を対象としたアンケートまたはヒアリング等を専門機関への委託により実施）

#### 《分析の重点事項》

- ・地元産茶葉のニーズがどの程度あるのか
  - ・県外産から地元産へどの程度の量を転換できる余地・見込みがあるのか
  - ・県外産から地元産への転換によってどの程度の雇用創出につながるか
- ②分析を基にした「お茶」の地産地消推進施策（生産振興・担い手育成・販売促進・販路拡大等）の検討と、具体的な支援策の作成
    - ※協議会のワーキンググループにおいて分析結果の検討と個別支援策の素案を作成、そのうえで全体的な支援策について協議会で検討

## **(2) 「お茶を使った料理・スイーツコンテスト」の開催**

- ・お茶の消費拡大、地産地消を目的とし、飲むだけでなくお茶の料理やお菓子への活用のきっかけづくりとして、コンテストを実施。H30年に開催される不昧公200年祭のプレイベントの位置づけとし、コンテスト後には、市内居酒屋やスイーツ店での商品化に向けた取り組みにつなげる。
- ・7～8月にコンテストの概要発表と募集の開始を行い、10月に審査会、表彰式を行う。優秀作品は、H30年からの商品化に向け、テスト販売等の機会を設ける。
- ・詳細については、協議会の「ワーキング会議」で検討を行い、進めていく。

## **(3) 市内各地域の「食材・食文化」の掘り起こしと活用**

- ・市内各地域に伝わる「食材・食文化」に着目し、それらの掘り起こし、活用の検討、商品化、観光資源化など、地域ぐるみの取り組みを支援する。